

## 保護者朝の会：本年度の改善係の活動報告と来年度へ向けての提案

- ① 2018年度改善係りの年間活動報告 資料1を参照
- ② センターオリジナル、もしくは市販の教材を共通教材として導入を検討する
- ③ 役員より『改善係』を廃止し『教材係』の新設案が出ている件に関して

### ① 2018-9年度の改善係活動報告 詳細レポート (資料1)

改善係は保護者及び教員から挙げられた問題点リストのもとに改正案を提案するべく活動をしている。活動は毎年年度初めに保護者会の承認をとった上で行う。

また、以下にあげられた課題についての調査方法の一つとして、グーグルフォームを使用し意見調査を行った。[100人から回答](https://docs.google.com/forms/d/1ZHX12wHhrbpccccc3AtSjeNM0MpWlfeIhj0GQC4uAA78/viewanalytics)があった。結果リンク以下。

<https://docs.google.com/forms/d/1ZHX12wHhrbpccccc3AtSjeNM0MpWlfeIhj0GQC4uAA78/viewanalytics> さらに、教員へのアンケート調査も行った。

2018年4月保護者会にて承認された活動内容	2019年2月時点での活動状況
<b>1.センター向上のため</b>	
①中高等部に関すること	都度生徒の興味・関心に合わせて学習内容を考える方針は継続。生徒の学年差、並び同一教員の担任年数が大きくなならない事が理想 他学年との交流・合同授業をより取り入れる
②はなびクラスの今後の体制について	低学年・高学年と複数クラスにする人数に至らないため、来年も1クラス体制をキープ。 来年度の教員が見つからない
③避難経路、緊急時のマニュアル作成	完了。2月23日の保護者会で報告。保護者より承認を得、ウェブに掲載する旨承認を得た。
④授業料遅延対策	2学期に承認済み、手数料週ごとに\$20加算されると定め、2019年3学期から施行。
⑤非協力保護者への対策	役員より要望なし。来年度に引継ぎ。
⑥今年度トライアル中のイエローカード制度のフォローアップ	現在使用報告例はないが、落ち着いて授業に参加できない、又特別ニーズが必要な生徒に対して、センターとしての対応方法を整える必要がある。 引き続き来年度もトライアル継続。
<b>2.経費削減のため</b>	
①バザーの復活	役員主催により2回実行された。来年度以降も継続か承認を取るのが好ましい。
②ワークブックを使用し、コピーの削減	幼児2と3においてオリジナルワークブックを試験的に制作。2019年度より使用予定。 来年度は児童部の制作を検討したい
<b>3.労働環境、待遇向上のため</b>	

①運営委員の体制に関すること	
②教材費の別途徴収について	役員より発表（承認）
③教員の謝礼—給料を適正価格への見直し	新昇給制度を提案、役員より発表（承認）
④代講対策	全学年、緊急代講キット準備完了
⑤教員の労働環境の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員ドライブを開設し、学年ごとに過去の週間授業報告及び教材リンクなどが閲覧できるようにまとめた。教員には案内済み。</li> <li>・緊急代行キットの完成</li> <li>・複数ある学年の共通教材としてセンターオリジナル教材を制作（幼児）</li> </ul>

## ② センターオリジナル、もしくは市販の教材を共通教材として導入を検討する

去年から制作した幼児用のオリジナル教材の試作品が完成。紹介。  
 来年からの試験的使用に向け、教員の最終確認・賛成を得た。保護者の賛同により、これから印刷に向かう。印刷発注納品は今年は改善が担当。来年以降は新制度の検討が必要。

これらの教材を導入する事で期待できる効果

- ・センター全体におけるコピーの量を削減
- ・ミスプリや印刷の質の悪さによる廃棄量も軽減
- ・複数クラスある学年の学習内容を一部共通・統一できる
- ・教員の授業構成を助ける
- ・保護者・生徒、双方にとって1年間の学習目標がわかりやすくなる

上記の効果が期待される為、来年度、引き続き『児童用』の教材選定・制作を検討する。

## ③役員より『改善係』を廃止し『教材係』の新設案が出ている件に関して

本当はもっときちんと今回の経緯を伝えるべきだと思いますが...

昨年度終わりのこの同時期に、教員からの嘆願書が出た。それを改善は重く受け止めた。  
 今年度は、その教員の声を受けて労働環境向上に向けて、なんとかしたいとの思いで取り組んできた。子供たちが楽しくセンターに通ってほしいと言う思いは、保護者の方はもちろん、教員・役員・改善みな同じであるが、『先生方が気持ちよく仕事をしてくれることが最重要』であると改善は考えた。

ただ役員との優先順位の違いなどから、役員と改善の間では話がうまくまとまらなかった。役員の「1つ変えれば対応は数か所に及ぶ」という言い分もわかる。『改善』と『役員』という2つの窓口があることで”どちらに言ったら良いのか”という混乱があったかもしれない。改善には元役員も在籍しているし、また私が元教員ということもあり、教員と少し近くなりすぎたところは申し訳なく思っているし、反省している。ただ、「教員の要望が役員へ言っても聞いてもらえないので、改善へ相談した」ということも多くあった。

今後は、ご意見はすべて役員へお願いしてもらいたい。そこから改善に依頼を頂く図式にしたい。今年せつかくとった保護者アンケート、先生からの声をしっかり受け止め、今後もセンターの改善に取り組んでいきたい。

教材選定・制作は、（役員発言：まずは教員会議にかけ、先生の依頼があった際は役員からの依頼を受けて）という形にする。『改善係』がどういう形が最善かは今後も検討する必要がある。